

新製品開発におけるフロントエンドローディング
「開発と上市」の両輪と新設計基準の創生
— 新設計基準の創生 —

(株) ジョンケルコンサルティング 落合以臣

A Front-End Loading in New Product Development

‘Both the "Development and Market" and creation of new design standards’
-Creation of new design standards-
Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords: 新設計基準・開発・上市・両輪・ソフトウェア・開発エンジニア

2018年も終盤になり、新たな気持ちで2019年を迎えるために、今年一年を振り返り、総まとめを行う月を迎えました。今年のテーマは、新設計基準の創生と位置付け、新製品開発におけるフロントエンドローディングについて、筆者の経験と戦術論の枠組みを通して「開発と上市」の両輪という新たな視点で書き下してきました。なぜならば、開発の延長線上に上市を位置付けているような従来路線を踏襲するのであれば、設計基準を根本から見直す必要がないからです。しかしながら、開発と上市を同時に進めるのであれば、今までの設計手法、それに関連した基準、あるいは品質保証、販売方法の考え方を根本から変更しなければ、それに対応することはできないはずです。また、今まで温存として維持してきた設計基準を、新たな視点に目を向けられることによって、開発エンジニアが陥りやすい主観的考えという呪縛から解放するためにも有効な手段ではないかと思えます。

「開発と上市」の両輪という考え方は、製品構想を従来のマーケティングに任せ、言われるままに製品化を行うのではなく、開発エンジニア自らが自らの発想で製品構想を描けるような仕組みを作ることが重要な要素になります。そのためには、早い段階から市場をイメージすることが、「開発と上市」の両輪を支える新たな開発体制の仕組みとなるはずで、最近では、携帯電話を構成するソフトウェアの画期的な進歩によって、目で見える情報が手に入る時代になりました。例えば、インスタグラムは、その代表的な仕組みといえるでしょう。しかしながら、時間軸を通して長い間、満足を与えられる手段ではなく、どちらかといえば、瞬時の情報を写し出す情報といえます。これでは、製品開発という長い道のりを制していく開発エンジニアのマインドを根底から支える手段にはならないでしょう。

こうしたことに鑑みますと、開発テーマの位置付けは大変重要になりますが、どのような手法で導き出すことができるのか、たとえ導き出すことができたとしても、上市する時期に開発した製品が消費者に受け入れられるだろうか、他社にもっとよい製品を出すのではないかなど、不安な要素が多々残ります。これらを払拭するためには、製品を投入する時期の世の中の状況・動向をニュートラルな視点で垣間見る必要があります。その状況・動向をある程度明確に把握することができれば、消費者ニーズを把握することができるので、製品開発の目的を定めることができます。つまり、「開発と上市」の両輪という考え方が成立し、それを実行することが可能になります。そうなれば、新たな視点での設計手法・基準、品質保証、販売方法をリニューアル、または新規で構築する必要性が自然と湧き上がってくると思います。おそらく、2019年は、「開発と上市」の両輪という考え方が、台頭するのではないかと期待する次第です。

今年も余すところ1ヶ月となりました。今年1年 JQ International Review をご一読いただき、誠にありがとうございました。皆様にとりまして、2019年は最良の年になりますようにお祈りしたいと思います。

また、2019年は新たな気持ちで精進し、新鮮な情報をもって開発エンジニアの方々にお役に立てるような JQ International Review をお届けしたいと思います。どうぞ、良いお年をお迎えください。